

第15回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

**特賞**

小論文部門

**教科等横断的な金融教育を実現する  
カリキュラム編成のための一考察**

～「金融教育で育成を目指す資質・能力」の設定とカリキュラム表作成の試み～

北海道・北海道教育大学附属函館中学校 教諭 郡司 直孝

## 1. 問題の所在と研究の目的

中央教育審議会（以下、「中教審」とする）が2016年12月21日に答申した「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、各教科等を学ぶ本質的な意義を明らかにすることに加えて「教科等を越えた視点で教育課程を見渡して相互の連携を図り、教育課程全体としての効果が発揮できているかどうか、教科等間の関係性を深めることでより効果を発揮できる場面はどこか、といった検討・改善を各学校が行うこと」<sup>1)</sup>の重要性を指摘している。

しかし、金融教育では、教科等横断の視点を持った議論や実践が十分になされてきたとは言い難い。金融広報中央委員会が主催する「金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」における過去6年間（2012年度～2017年度）の特賞、優秀賞、推奨実践事例賞として公開されている小論文や実践報告を分析したとき、教科等横断の視点を持ったものは1編であった<sup>2・3)</sup>。また、教科等横断を視野に入れた実践として、近年「総合的な学習の時間」での実践報告が多く見られるものの、教育課程上の位置付けや各教科等との関連があまり明確ではなく、入念に準備された一定の条件下における特別な事例となっている傾向が見られる。

さらに、いわゆる「〇〇教育」が数多く主張される中で、それらを教科等横断的に実践しようとするとき、各教科等の「内容」に基づいて検討されることが多い。しかし、内容による横断では、「〇〇教育」に密接に関わる（とされる）教科に特化したカリキュラムに終始してしまう。このことは、金融広報中央委員会による「『学校における金融教育の年齢層別目標』を取り上げている指導計画例等」での実践例が、特定の教科等名を記していることや、中学校ではほとんどが社会科の公民的分野または技術・家庭科の家庭分野となっていることから明らかである<sup>4)</sup>。このような教科等の内容に基づいた横断では、中教審が求める「教科等を越えた視点で教育課程を見渡」<sup>1)</sup>すことは実現できない。

つまり、内容とは異なる軸に基づいた教科等横断的な金融教育を実現するカリキュラム編成が必要なのである。

そこで本研究では、その軸として、次期学習指導要領における「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」に手がかりを求め、「金融教育で育成を目指す資質・能力」を設定するとともに、カリキュラム編成のための具体的な手続きを示すことを目的として議論を展開する。

## 2. 研究の方法

本研究ではまず、中教審答申や次期学習指導要領における「育成を目指す資質・能力」に関する議論に基づいて、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」の一つとして、これまでの金融教育に関する研究成果や実践等を踏まえた「金融教育で育成を目指す資質・能力」を提案する。そして、「金融教育で育成を目指す資質・能力」を三つの柱に基づいて整理するとともに、三つの柱それぞれの下位に位置付く要素へのアプローチを具現化する教科及び内容を、次期学習指導要領に基づいて整理する。最後に、提案したカリキュラムの意義と課題を明らかにする。

## 3. 中教審答申や次期学習指導要領が示す「育成を目指す資質・能力」

中教審答申では、現行学習指導要領に基づく教育課程の課題として、教科等の枠組みごとに知識や技能の内容に沿って順序立てて整理したものとなっていることを指摘し、「一つ一つの学びが何のためか、どのような力を育むものかは明確ではない」とする<sup>5)</sup>。そして、この状況の克服には、「教科等を越えた視点で教育課程を見渡して相互の関連を図り、教育課程全体としての効果が発揮できているかどうか、教科等間の関係性を深めることでより効果を発揮できる場面はどこか、といった検討・改善を各学校が行うこと」<sup>6)</sup>を求める。さらには、「子供たちが変化の激しい社会を生きるために必要な資質・能力とは何かを明確にし、教科等を学ぶ本質的な意義を大切にしつつ、教科等横断的な視点も持って育成を目指すしていくこと」<sup>7)</sup>を求めている。また、「資質・能力」を「知識、技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している<sup>8)</sup>。

こうした中教審答申に基づく次期学習指導要領を見据えたとき、金融教育を教科等横断的に展開することが重要になる。金融広報中央委員会は、「金融経済環境の大きな変化」によって「さまざまなリスクやトラブルに直面することも少なくない時代」背景から「学校における金融教育の必要性」を指摘する<sup>9)</sup>。また、金融教育を「お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育」と定義し、『『生きる力』(略)を養う上で有効な手段を

提供できる教育」と位置付ける<sup>10)</sup>。だからこそ、金融教育で育成を目指す「資質・能力とは何かを明確にし、教科等を学ぶ本質的な意義を大切にしつつ、教科等横断的な視点も持って育成を目指していくこと」<sup>7)</sup>が重要になる。

#### 4. 「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」としての「金融教育で育成を目指す資質・能力」の設定

次期学習指導要領では、中教審の議論を受けて、教科等横断的な視点に立って育成を目指す資質・能力として、「(1)学習の基盤となる資質・能力」と「(2)現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」を示す<sup>11)</sup>。この「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として、中教審答申は、「健康・安全・食に関する力」、「主権者として求められる力」などを例示している<sup>12)</sup>。

一方、金融広報中央委員会は、近年の金融教育に対する関心の高まりの要因について、現在の子供たちがお金やものに囲まれた豊かな環境の中で育っていることや、子供に関連した金融トラブル等の増加といった「生活環境の変化」と、我が国の経済が少子・高齢化や人口減少という成長制約要因を抱えながら、自らの力で新しい発展の道を切り開かねばならない時代に移行する「経済社会環境の変化」の2点を指摘している<sup>13)</sup>。これらの指摘を踏まえたとき、金融教育で育成を目指す資質・能力は、まさに「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」の一つとして位置付けることができるであろう。

したがって、以下では、「金融教育で育成を目指す資質・能力」を、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として位置付け、教科等横断的な取組を実現するカリキュラム編成のための手続きについて考察していく。

#### 5. 教科等横断的な金融教育を実現するカリキュラム編成

##### (1) カリキュラム編成のための基本的な考え方

「金融教育で育成を目指す資質・能力」を、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として位置付け、意図的・計画的かつ教科等横断的に取り組むためには、カリキュラム編成が重要である。それは、各教科等の学習活動が、「金融教育で育成を目指す資質・能力」のどれにアプローチしているのかをカリキュラムとして明示することで、実践が適切に積み重ねられるとともに、それら取組を評価・改善することが可能になるからである。

そこで、どのような手続きによってカリキュラムを編成するか、という問題が生じる。

この点について、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」では、付録6として「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容についての参考資料」を示している。この資料は、各教科で育成を目指す資質・能力を、「〇〇教育」という視点に基づいて整理するアイデアを提供しており、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」育成のためのカリキュラムを編成する方策として、有意義な提案である。しかし、「〇〇教育」に密接に関わる（とされる）教科の資質・能力の羅列に終始しているため、教科等横断の視点に立つという役割を果たすことはできていない。さらには、付録6には「金融教育」が含まれていないため、金融教育を意図的・計画的かつ教科等横断的に取り組むカリキュラム編成のために、付録6を用いることは難しい。

そこで、北海道教育大学附属函館中学校（以下、「附属函館中」とする）が2017年度から取り組んでいる「『情報活用能力』育成のためのカリキュラム表」編成の手続きに注目したい。附属函館中では、次期学習指導要領で示された、教科等横断の視点に立って育成を目指す資質・能力のうち、「(1)学習の基盤となる資質・能力」として「情報活用能力」を設定する。そして、この資質・能力の育成を目指した教科等横断的な取組として、「『情報活用能力』育成のためのカリキュラム表」の整備に取り組んでいる。附属函館中では、このカリキュラム表を作成するために、まず「情報活用能力」を構成する三つの柱と、その下位に位置付け要素（以下、「資質・能力の要素」とする）について、中教審答申「別紙」に示された「情報活用能力を構成する資質・能力」に基づいた設定を行っている。そして、「資質・能力の要素」の育成にアプローチする各教科等名と学習内容を明らかにしたカリキュラム表を作成している。さらには、授業実践に対する評価を行い、「資質・能力の要素」の育成にアプローチできたかどうかを明確にした上で、カリキュラム表の改善に取り組んでいる<sup>14)</sup>。

附属函館中が整備する「『情報活用能力』育成のためのカリキュラム表」には、次のような長所がある。まず、情報教育で育成を目指す資質・能力を軸に据えてカリキュラム表を構成することによって、どの時期に、どの教科の、どの単元によって、「資質・能力の要素」の育成が目指されているのかを一瞥することや、他教科等での学習状況を踏まえた授業実践を期待することができる点である。また、資質・能力別の実践の多寡や濃淡がわかりやすく表されることによって、

重点的に取り組む教科等を明らかにできる点である。

本研究では、附属函館中における『『情報活用能力』育成のためのカリキュラム表』を編成する手続きを基本に据えて、『『金融教育で育成を目指す資質・能力』育成のためのカリキュラム表』編成の具体を、(2)において提案することとする。

(2) 『金融教育で育成を目指す資質・能力』育成のためのカリキュラム表(第1案)編成の具体

① 「金融教育で育成を目指す資質・能力」の設定

カリキュラムを編成するためには、軸となる「金融教育で育成を目指す資質・能力」を設定することが必要となる。そこで、以下の手続きによって「金融教育で育成を目指す資質・能力」を設定した。

まず、金融広報中央委員会のWEBサイト「暮らしに役立つ身近なお金の知恵・知識情報サイト 知るぽると」(以下、「知るぽると」とする)における「金融教育の目標」を分析し、再整理を行なった。具体的には、「金融教育の目標」として示されている四つの分野(A 生活設計・家計管理に関する分野、B 金融や経済の仕組みに関する分野、C 消費生活・金融トラブル防止に関する分野、D キャリア教育に関する分野)それぞれの目標項目を分析・統合し、資質・能力の三つの柱に基づいた整理を行なった<sup>15)</sup>(作業1)。

次に、金融教育に関するこれまでの研究成果や実践を反映するため、知るぽるとに掲載されている指導計画例等での「単元の目標」を分析し、作業1で整理した「金融教育で育成を目指す資質・能力」に追加・修正を行った<sup>16)</sup>(作業2)。

最後に、中教審答申「別紙」に示されている「教科等横断的な視点に立って育成を目指す資質・能力」を参考にして、汎用性を高めるための文言の整理を行った(作業3)。これは、金融教育を教科等横断的な取組とするためには、特定の教科だけがアプローチできる資質・能力ではなく、どの教科等からもアプローチが可能ないように間口を広げる必要があると考えたためである<sup>17)</sup>。

以上の作業1から作業3を通して設定した「金融教育で育成を目指す資質・能力」を、表1に示す。

表1 「金融教育で育成を目指す資質・能力」

知識、技能	トレード・オフ、機会費用、効率、公正、価値観等の意思決定の基本に関する理解
	金融商品の基本的な特徴や貯蓄・保険の意義と機能、期間と金利の関係、お金の働きや役割、金融機関や中央銀行の役割・機能、家計・企業・政府等の役割、市場や景気変動、消費者の権利と責任、消費者問題、労働者の権利と義務等に関する理解
	日常生活において存在する様々なリスクに関する理解
	情報を収集して適切に活用できる技能
思考力、判断力、表現力等	計画の必要性や重要性を踏まえて、自分の考えや価値観等に基づいて計画を立てることができる力
	問題を発見・解決したり、多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ることを通して、課題解決に向けて合理的、主体的に考えることができる力
学びに向かう力、人間性等	希少性の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する態度
	自己責任の下で判断する態度
	法律や制度に関する理解を踏まえて、それらを活用して事態に対処する態度
	自らの役割を果たしつつ、多様な人々と協働しながら、よりよい人生や社会を構築していこうとする態度

②各教科等における「金融教育で育成を目指す資質・能力」の育成に資する内容の抽出・整理

①で設定した「金融教育で育成を目指す資質・能力」の「資質・能力の要素」に対して、どの教科のどの内容がその育成にアプローチできるかを検討した。具体的には、次期学習指導要領における各教科の内容のうち、「金融教育で育成を目指す資質・能力」の「資質・能力の要素」を育成することのできる教科や内容を抽出し、整理した(作業4)。

③ 「『金融教育で育成を目指す資質・能力』育成のためのカリキュラム表(第1案)」の編成

作業4を踏まえて編成したカリキュラム表を、資料1～3に示す。

## 6. まとめ

本研究で提案した『金融教育で育成を目指す資質・能力』育成のためのカリキュラム表の意義と課題は、以下の通りである。

まず、第1案を作成する過程では、他教科の教員との議論を必要とする機会が数多くあった。つまり、5(2)で述べた編成の手続きにしたがってカリキュラム表を作成することによって、他の教員等とのコミュニケーションが図られるとともに、その継続によってカリキュラム表そのものの改善が進み、より精緻化されていくことが期待される。そのような意味で、第1案は、金融教育について、資質・能力を軸とした特定の教科に限定されない教科等横断的な取組のための第一歩だと考えている。

一方、課題としては、以下の2点を指摘することができる。1点目は、第1案の作成においては、次期学習指導要領に示されている各教科のみで編成を試みている。道徳、総合的な学習の時間、特別活動の内容等を追加することによって、さらに充実したカリキュラムを編成することができると思う。とくに第1案では、10の「資質・能力の要素」のうち、「自己責任の下で判断する態度」へアプローチする教科を設定できていない。「自己責任意識」は、金融広報中央委員会が示す「金融教育を实践する上で念頭に置いて頂きたい概念」の1つであり<sup>18)</sup>、多様な学習活動によるアプローチを検討しなくてはならない。

2点目は、この度の検討では、学習指導要領の各教科の「内容」に記されている文言に拠って整理を行っている。今後、実際に授業で取り組まれている学習活動や授業の目標を踏まえることによって、今回組み込むことのできなかった音楽科や美術科、外国語科を含めた、より実践的なカリキュラム編成を実現することができると思う。

以上で示した課題は、第1案に基づいた授業実践の蓄積や他教科の教員との対話の継続的な取組によって克服することが可能だと考えている。教科等横断的な金融教育を実現するための試みに、第1案を契機として引き続き取り組んでいきたい。

注1、5～8、12) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」2016年12月21日

URL [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/toushin.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/toushin.htm)

閲覧日2018年8月17日

注2) 金融広報中央委員会「第12回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」 研究校部門 推奨実践事例賞

岡山県・倉敷市立精思高等学校・金融教育委員会「地域を通じた体験的な学びから、社会的自立を目指した金融教育の実践～定時制高校から見えたこと～」

URL [https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours\\_kyoin/2015/](https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_kyoin/2015/)

閲覧日2018年9月14日

注3) 金融広報中央委員会「金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」 2012～2017年

URL [https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours\\_kyoin/](https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_kyoin/)

閲覧日2018年5月31日

注4) 金融広報中央委員会「『学校における金融教育の年齢層別目標』を取り上げている指導計画例等（リンク表）」

URL <https://www.shiruporuto.jp/education/howto/container/program/program08/program804.html>

閲覧日2018年9月14日

注9) 金融広報中央委員会『金融教育ガイドブック～学校における実践事例集』 2005年

注10) 金融広報中央委員会『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは』 「1.金融教育のねらいと基本的性格（1）金融教育とは？」

URL <https://www.shiruporuto.jp/education/about/container/program/>

閲覧日2018年9月11日

注11) 文部科学省『中学校学習指導要領』平成29年3月告示

注13) 金融広報中央委員会『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは』 「1.金融教育のねらいと基本的性格（2）いま、なぜ金融教育か？」

URL <https://www.shiruporuto.jp/education/about/container/program/>

閲覧日2018年9月11日

注14) 北海道教育大学附属函館中学校「教育研究大会当日資料」 2018年

注15) 金融広報中央委員会『金融教育プログラム——社会の中で生きる力を育む授業とは』「2.金融教育の目標と方法（1）金融教育の目標」

URL <https://www.shiruporuto.jp/education/about/container/program/>

閲覧日2018年9月14日

注16) 金融広報中央委員会、前掲注4に示されている実践の指導計画例を参考にした。

注17) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」別紙

2016年12月21日

URL [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/toushin.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/toushin.htm)

閲覧日2018年9月14日

注18) 金融広報中央委員会『金融教育プログラム——社会の中で生きる力を育む授業とは』「2.金融教育の目標と方法（1）金融教育の目標<2>金融教育を実践する上で念頭に置いて頂きたい概念」

URL <https://www.shiruporuto.jp/education/about/container/program/>

閲覧日2018年9月15日

資料1 「金融教育で育成を目指す資質・能力」育成のためのカリキュラム(第1案)【第1学年】

金融教育で育成を目指す資質・能力	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
								技術分野	家庭分野	
トレード・オフ、機会費用、効率、公正、価値観等の意思決定の基本に関する理解										
金融商品の基本的な特徴や貯蓄・保険の意義と機能、期間と金利の関係、お金の働きや役割、金融機関や中央銀行の機能・役割、家計・企業・政府等の役割、市場や景気変動、消費者の権利と責任、消費者問題、労働者の権利と義務等に関する理解										
知識、技能  日常生活において存在する様々なリスクに関する理解							(保健分野) (1)ア(ア)健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること。 (1)ア(イ)健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。 (1)ア(ウ)生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。 (1)ア(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。 (1)ア(オ)感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。 (2)ア(イ)精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。 (3)ア(ア)交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。 (3)ア(イ)交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。 (3)ア(ウ)自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。 (3)ア(エ)応急処置を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。 (4)ア(ウ)人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。			

金融教育で育成を目指す 資質・能力	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
								技術分野	家庭分野	
知識、 技能	情報を収集して 適切に活用できる 技能	<p>(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 原因と結果、意見と根拠などの情報と情報との関係について理解すること。</p> <p>イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。</p>	<p>(地理的分野)</p> <p>(1) 地域調査の方法</p> <p>(ア) 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解すること。</p> <p>(イ) 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けること。</p> <p>(歴史的分野)</p> <p>A 歴史との対話</p> <p>(1) 私たちと歴史</p> <p>ア (1) 資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けること。</p> <p>(2) 身近な地域の歴史</p> <p>ア (ア) 自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けること。</p>	D データの活用						
思考力、 判断力、 表現力等	計画の必要性や 重要性を踏まえて、 自分の考えや価値観等 に基づいて計画を立て ることができる力			<p>(第1分野)</p> <p>(1) 身近な物理現象</p> <p>(イ) 力の働き</p> <p>イ 身近な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見だしで表現すること。</p> <p>(2) 身の回りの物質</p> <p>(ウ) 状態変化</p> <p>イ 身の回りの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見だしで表現すること。</p> <p>(第2分野)</p> <p>(2) 大地の成り立ちと変化</p> <p>イ 大地の成り立ちと変化について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見だしで表現すること。</p>						



金融教育で育成を目指す 資質・能力	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
								技術分野	家庭分野	
<p>問題を見発見・解決したり、多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ることを通して、課題解決に向けて合理的、主体的に考えることができる力</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p>	<p>(話すこと・聞くこと)</p> <p>(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。</p> <p>イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考へること。</p> <p>ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現し工夫すること。</p> <p>エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。</p> <p>オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。</p> <p>(読むこと)</p> <p>オ 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かなものにすること。</p>			<p>(第2分野)</p> <p>(2) 大地の成り立ちと変化</p> <p>イ 大地の成り立ちと変化について、問題を見いだし見直しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現すること。</p>			<p>(体育分野)</p> <p>A 体づくり運動</p> <p>(2) 自己の課題を見発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>B 器械運動</p> <p>(2) 技などの自己の課題を見発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>C 陸上競技</p> <p>(2) 動きなどの自己の課題を見発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>D 水泳</p> <p>(2) 泳法などの自己の課題を見発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>E 球技</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を見発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>F 武道</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を見発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>G ダンス</p> <p>(2) 表現などの自己の課題を見発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>H 体育理論</p> <p>(1) イ 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を見発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。</p> <p>(2) イ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を見発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。</p>	<p>A 材料と加工の技術</p> <p>(2) イ 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するするとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考へること。</p> <p>B 生物育成の技術</p> <p>(2) イ 問題を見いだして課題を設定し、育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てるとともに、栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善及び修正について考へること。</p>		
	<p>希少性の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する態度</p>									<p>B 衣食住の生活</p> <p>(5) イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考へ、製作を工夫すること。</p>
	<p>自己責任の下で判断する態度</p> <p>法律や制度に関する理解を踏まえて、それらを活用して事態に対処する態度</p> <p>自らの役割を果たしつつ、多様な人々と協働しながら、よりよい人生や社会を構築していくこととする態度</p>									

資料2 「金融教育で育成を目指す資質・能力」育成のためのカリキュラム(第1案)【第2学年】

金融教育で育成を目指す資質・能力	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
								技術分野	家庭分野	
トレード・オフ、機会費用、効率、公正、価値観等の意思決定の基本に関する理解										
金融商品の基本的な特徴や貯蓄・保険の意義と機能、期間とお金の働きや役割、金融機関や中央銀行の機能・役割、家計・企業・政府等の役割、市場や景気変動、消費者の権利と責任、消費者問題、労働者の権利と義務等に関する理解		(歴史的分野) C 近現代の日本と世界 (1)近代の日本と世界 A(ア) 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解すること。 A(イ) 開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解すること。 A(エ) 我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解すること。	C 関数 (1)ア(ア) 一次関数について理解すること。 (1)ア(イ) 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ること。 (1)ア(ウ) 二元一次方程式を関数を表す式とみること。						C 消費生活・環境 (1)ア(ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 (1)ア(イ) 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。 (1)イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。 (2)ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。 (2)イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。	
日常生活において存在する様々なリスクに関する理解							(保健分野) (1)ア(ア) 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること。 (1)ア(イ) 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。 (1)ア(ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。 (1)ア(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。 (1)ア(オ) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。 (2)ア(エ) 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。 (3)ア(ア) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。 (3)ア(イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。 (3)ア(ウ) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。 (3)ア(エ) 応急処置を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。 (4)ア(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。		B 衣食住の生活 (6)ア(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。	

金融教育で育成を目指す 資質・能力		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
知識、 技能	情報を収集して 適切に活用できる 技能								技術分野	家庭分野	
				(2) 話や文章に含まれている情報の扱いに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。 イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。		D データの活用 (1) ア(ア) 四方位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解すること。 (1) ア(イ) コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すこと。					
	思考力、判断力、表現力等 計画の必要性や重要性を踏まえて、自分の考えや価値観等に基づいて計画を立てることができる力				(第1分野) (3) 電流とその利用 イ 電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現すること。 (4) 化学変化と原子・分子 イ 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現すること。  (第2分野) (3) 生物の体のつくりと働き イ 身近な植物や動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現すること。 (4) 気象とその変化 イ 気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現すること。					C 消費生活・環境 (3) ア 自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践できること。	

金融教育で育成を目指す 資質・能力	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
								技術分野	家庭分野	
<p>思考力 判断力 表現力等</p> <p>問題を発見・解決したり、多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ることを通して、課題解決に向けて合理的、主体的に考えることができる力</p>	<p>(話すこと・聞くこと) (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。 ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。</p> <p>(読むこと) オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。</p>	<p>(地理的分野) (4) 地域の在り方 イ (ア) 地域の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。</p>					<p>A 体づくり運動 (2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 B 器械運動 (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 C 陸上競技 (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 D 水泳 (2) 泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 E 球技 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 F 武道 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを仲間に伝えること。 G ダンス (2) 表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 H 体育理論 (1) イ 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。 (2) イ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。</p>	<p>A 材料と加工の技術 (2) イ 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。 C エネルギー変換の技術 (2) イ 問題を見いだして課題を設定し、電気回路又は力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。</p>	<p>C 消費生活・環境 (3) ア 自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践できること。</p>	
<p>学びに向かう力 人間性等</p> <p>希少性の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する態度</p> <p>自己責任の下で判断する態度</p> <p>法律や制度に関する理解を踏まえて、それらを活用して事態に対処する態度</p> <p>自らの役割を果たしつつ、多様な人々と協働しながら、よりよい人生や社会を構築していくこととする態度</p>										

資料3 「金融教育で育成を目指す資質・能力」育成のためのカリキュラム(第1案)【第3学年】

金融教育で育成を目指す 資質・能力	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
								技術分野	家庭分野	
知識、 技能	トレード・オフ、 機会費用、効率、 公正、価値観等 の意思決定の基 本に関する理解	(公民的分野) A 私たちと現代 社会 (2) 現代社会を 捉える枠組み ア (ア) 現代社 会の見方・考え 方の基礎となる 枠組みとして、 対立と合意、効 率と公正などに ついて理解する こと。 ア (イ) 人間は本 来社会的存在で あることを基に、 個人の尊厳と良 性の本質的平等、 契約の重要性や それを守ること の意義及び個人 の責任について 理解すること。								
	金融商品の基本 的な特徴や貯蓄・ 保険の意義と機 能、期間と金利 の関係、お金の 働きや役割、金 融機関や中央銀 行の機能・役割、 家計・企業・政 府等の役割、市 場や景気変動、 消費者の権利と 責任、消費者問 題、労働者の権 利と義務等に關 する理解	(歴史的分野) C 近現代の日本 と世界 (2) 現代の日本 と世界 ア (イ) 高度経 済成長、国際社 会との関わり、 冷戦の終結など を基に、我が国 の経済や科学技 術の発展によっ て国民の生活が 向上し、国際社 会において我が 国の役割が大き くなってきたこ とを理解すること。  (公民的分野) B 私たちと経済 (1) 市場の働き と経済 ア (ア) 身近な 消費生活を中心 に経済活動の意 義について理解 すること。 ア (イ) 市場経 済の基本的な考 え方について理 解すること。そ の際、市場にお ける価格の決ま り方や資源の配 分について理解 すること。 ア (ウ) 現代の 生産や金融など の仕組みや働き を理解すること。 ア (エ) 勤労の 権利と義務、労 働組合の意義及 び労働基準法の 精神について理 解すること。 (2) 国民の生活 と政府の役割 ア (ア) 社会資本 の整備、公害の 防止など環境の 保全、少子高齢 社会における社 会保障の充実・ 安定化、消費者 の保護について、 それらの意義を 理解すること。 ア (イ) 財政及 び租税の意義、 国民の納税の義 務について理解 すること。	C 関数 (1) ア(ア) 関 数 $y=ax^2$ について 理解すること。 (1) ア(イ) 事 象 の中には関数 $y=ax^2$ として捉 えられるものが あることを知る こと。 (1) ア(ウ) いろ いろな事象の中 に、関数関係が あることを理解 すること。							

金融教育で育成を目指す資質・能力		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
									技術分野	家庭分野	
知識、技能	日常生活において存在する様々なリスクに関する理解							(保健分野) (1)ア(ア)健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること。 (1)ア(イ)健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。 (1)ア(ウ)生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となっており起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。 (1)ア(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。 (1)ア(オ)感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。 (2)ア(エ)精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。 (3)ア(ア)交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。 (3)ア(イ)交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。 (3)ア(ウ)自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。 (3)ア(エ)応急処置を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。 (4)ア(ウ)人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。			
	情報を収集して適切に活用できる技能	(2)話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。 イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。		Dデータの活用 (1)ア(ア)標本調査の必要性と意味を理解すること。 (1)ア(イ)コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理すること。				(1)ア 情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解すること。			

金融教育で育成を目指す 資質・能力	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
								技術分野	家庭分野	
<p>思考力、判断力、表現力等</p>				<p>(第1分野) (5)運動とエネルギー イ 運動とエネルギーについて、見直しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。 (6)化学変化とイオン イ 化学変化について、見直しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。 (7)科学技術と人間 イ 日常生活や社会で使われるエネルギーや物質について、見直しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。</p>					<p>A 家族・家庭生活 (4)ア 家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。 B 衣食住の生活 (7)ア 食生活、衣生活、住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。</p>	
	<p>計画の必要性や重要性を踏まえて、自分の考えや価値観等に基づいて計画を立てることができる力</p>	<p>(話すこと・聞くこと) (1)話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。 ウ 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること。 オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>(読むこと) オ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。</p>	<p>(公民的分野) D 私たちと国際社会の諸課題 (2)よりよい社会を目指してア 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述すること。</p>				<p>(体育分野) A 体づくり運動 (2)自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 B 器械運動 (2)技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 C 陸上競技 (2)動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 D 水泳 (2)泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 E 球技 (2)攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 F 武道 (2)攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 G ダンス (2)表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 H 体育理論 (1)イ 文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。</p>	<p>D 情報の技術 (2)イ 問題を見いだして課題を設定し、使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法等を構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。 (3)イ 問題を見いだして課題を設定し、入力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。</p>	<p>A 家族・家庭生活 (4)ア 家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。 B 衣食住の生活 (7)ア 食生活、衣生活、住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。</p>	

金融教育で育成を目指す 資質・能力		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭		外国語
									技術分野	家庭分野	
学びに向かう力、 人間性等	希少性の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する態度										
	自己責任の下で判断する態度										
	法律や制度に関する理解を踏まえて、それらを活用して事態に対処する態度		(公民的分野) C 私たちと政治 (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 ア (ア) 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解すること。 ア (イ) 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解すること。 (2) 民主政治と政治参加 ア (イ) 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。								
自らの役割を果たしつつ、多様な人々と協働しながら、よりよい人生や社会を構築していかうとする態度		(公民的分野) D 私たちと国際社会の諸課題 (2) よりよい社会を目指して ア 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述すること。									